

科学研究費助成事業 研究成果報告書

平成 26 年 6 月 23 日現在

機関番号：16401

研究種目：基盤研究(C)

研究期間：2011～2013

課題番号：23500735

研究課題名(和文) 英連邦大会の歴史的変容に関する研究

研究課題名(英文) Research on the historical changes of the Empire Games and the Commonwealth Games

研究代表者

川本 真浩 (Kawamoto, Masahiro)

高知大学・教育研究部・人文社会科学系・准教授

研究者番号：20314338

交付決定額(研究期間全体)：(直接経費) 1,600,000円、(間接経費) 480,000円

研究成果の概要(和文)：本研究では、スポーツ史及び帝国＝コモンウェルス史の観点から、英連邦大会の初期の歴史を見直し、その新たな局面を明らかにした。同大会は、帝国＝コモンウェルス史のなかのスポーツ文化の一つにとどまるものではなかった。同大会とその開催事業によって、政治の世界でいうコモンウェルスとは別の「もうひとつのコモンウェルス」が作りだされ、しかも政治とも関わりあう形で一定の社会的機能を果たしたのである。さらに、本研究では、グローバルなスポーツ大会と本国の地域ナショナリズムの相互関係を視野に入れつつ、スコットランドの事例を探ることによって、スポーツの世界でナショナリズムと帝国意識が交錯する様子をも明らかにした。

研究成果の概要(英文)： This research revisits the history of the Empire Games and the Commonwealth Games in the early period before and just after inauguration, and shows new phases from the perspective both of sports history and the Empire and Commonwealth history. The Games have not only been a part of sports culture but created 'another Commonwealth' which is different from the (British) Commonwealth of Nations. This type of Commonwealth have socially made great effects interacted with the political one. It is also revealed that through inspecting the case in Scotland in the 1930s Nationalism in Great Britain was intertwined with the imperialism and national identity in the sports world from the point of view of the relationship between the global sports event and nationalism in the home country.

研究分野：総合領域

科研費の分科・細目：健康・スポーツ科学、スポーツ科学

キーワード：コモンウェルス 英連邦 エンパイア・ゲームズ コモンウェルス・ゲームズ イギリス帝国 歴史
スポーツ

1. 研究開始当初の背景

本研究代表者は、イギリス帝国史研究の展開を視野に入れながら、近代イギリス社会のありようを探る研究にこれまでとりくんできた。とくに近年は、地域イベントの歴史的特徴とその変容に着目して研究をすすめている。その主な研究対象は、19世紀末から20世紀初頭にかけて盛んに開催された博覧会と、20世紀初頭に開催ブームが巻き起こった野外歴史劇「パジェント」である。娯楽や余暇文化としてのイベントの特性に目配りしながら、地域のさまざまな利害や集団が関与する形で企画・運営されるイベントのありようと国家ないし帝国との関わりかたに迫り、人びとの日常生活が営まれる「地域」と、より包括的な(しばしば「想像された」)共同体たる「ネーション」、「国家」、さらに「帝国」という、重層的な空間が織りなす構造とその歴史的特性を解明すべく、研究を進めてきた。こうした「帝国を視野に入れつつ、イベントをとおしてイギリス社会にアプローチする」という本研究代表者の関心は、帝国規模で開催され、現代に続くスポーツ大会である英連邦大会へ向かった。そうした研究上の関心の移行が本研究の主たる動機のひとつである。

もとよりスポーツとイギリス帝国や帝国意識ないし帝国主義との関係を扱った研究は国内外で大きく進展していた。また英連邦大会についても1990年前後と2000年代半ば以降になされた注目すべき先行研究がある。ただ、この80年余り、オリンピックと同様に4年に1度のサイクルで開催されてきた国際スポーツ大会である英連邦大会の歴史の変容に着目した研究は国内外とも管見のかぎりほとんどなかった。帝国ないしコモンウェルスというグローバルな領域の存在を前提としたスポーツ・イベントであると同時に、開催国ないし開催都市にとっては国や地域をあげて開催を誘致・推進する地域イヴ

ェントであるという特徴をもつ英連邦大会は、その歴史の変容にこそ注目すべきである。そうした考えに加えて、「英連邦大会」というスポーツ・イベントをイギリス帝国史ならびにスポーツ史の両方から新たにとらえ直すことがそれぞれの領域でのさらなる研究の展開につながるはずであると考えたことも、本研究計画の出発点にあった。

2. 研究の目的

本研究では、1930年にエンパイア・ゲームズとして始まり現在はコモンウェルス・ゲームズとして開催されている「英連邦大会」(英連邦競技会)について、スポーツ史及びイギリス帝国史にかかる近年の研究成果をふまえ、その新たな展開を志向して考察を進める。とくに第2次世界大戦をはさんで開催された大会に着目し、(1)イギリス帝国史のなかでの英連邦大会の位置づけとその変容、(2)グローバルな規模でのスポーツ大会と地域イベントとしてのスポーツ大会という性格が交錯する諸相、の2点に焦点を絞って、第2次世界大戦前後の地域社会・国家・帝国・世界の劇的な情勢変化のなかでこの大会をとらえなおし、次のような点を明らかにすることが、本研究の目的である。

(1)英連邦大会の開催事業に関わった個人や諸集団が抱くさまざまな理念、利害、思惑、それらのもつ社会的特性と影響力、スポーツ・イベントに付与される社会的表象の意味、さらにはそれらすべてが地域や国家、帝国ないしコモンウェルスという「想像の共同体」に与えるインパクトを明らかにする。

(2)20世紀前半の英連邦大会の変貌をより広範な帝国=コモンウェルス史及びグローバルな視点からの近現代史の文脈に据えた観点からとらえなおし、その歴史的特性を明らかにする。

(3)帝国=コモンウェルスをめぐる情勢が大きく変化する時期にあっても4年に1度のペースで開催されてきた英連邦大会の「グ

ローバルな規模のスポーツ・イベント」としての実像と国際社会におけるその独自性を明らかにする。

3. 研究の方法

まず、近現代イギリス史、イギリス帝国史、コモンウェルス史、近代スポーツ史、カナダ史、オーストラリア史、ニュージーランド史などに関わる研究文献や一次史料の渉猟・収集ならびにそれら史資料の整理とデータ作成に着手した。とくに、平成 24 年 2 月末から 3 月前半にかけての英国ロンドン（コモンウェルス事務局図書館、国立公文書館及び大英図書館）での調査、同 24 年 11 月のスターリング大学図書館（英国）での調査、同 25 年 9 月のカナダ連邦公文書館（オタワ）での調査により、先行研究でとりあげられたことのない一次史料を含む、貴重かつ有用な研究材料を多く入手することができた。

これら文献及び史資料の収集と並行して、データや情報の整理と分析・考察を進めた。先行研究から得られる知見と一次史料のデータを照合し再検討するなかで、従来の叙述、議論、視角の見直しをおこなうとともに、先行研究には現れない新たな知見も加えていった。最終年度の終わりに近い平成 26 年 1 月のロンドン（英国）での調査（国立公文書館、コモンウェルス事務局図書館及び東ロンドン大学文書館）では、それまでの調査と考察ではカバーしきれなかった部分を補う史料も入手した。

このような手順で遂行した史料収集とその整理・分析・考察の進展にしたがって、そこから導き出された成果をとりまとめる作業を進めるべく、別記のような、1930 年代すなわち最初期のエンパイア・ゲームズ開催に関わるスコットランドのスポーツ界の動きに焦点をあわせた論稿と、19 世紀末の帝国スポーツ・イベント提案からエンパイア・ゲームが始まった 1930 年代までの経緯にか

かる先行研究を再検討するとともに新たな知見で補完する論稿（いずれも英文）を執筆した。

4. 研究成果

本研究の成果のひとつとして、収集した史資料と先行研究などを照合・検証して、英連邦大会（エンパイア・ゲームズ及びコモンウェルス・ゲームズ）の開催状況に関する基礎データを整理しなおしたことがあげられる。開催大会について編年的にまとめられたものは大会統括団体であるコモンウェルス・ゲームズ連盟の公式ホームページにも掲載されているが、とくに最初期の大会の数値データにブレがあることや、大会名称の変更の経緯についてはそうした一般向け説明資料はおろか先行研究にもふれられていなかったこともあるので、本研究によってそれらを整理し論稿のなかで公にしたことには一定の意義がある。

成果の二つめは、本国及び自治領（オーストラリア、カナダ、ニュージーランドなど）からなる旧コモンウェルス諸国とアジア・アフリカ・カリブ海などの新興独立国からなる新コモンウェルス諸国の、英連邦大会における位置づけ、大会への姿勢及びそれらの変容について明らかにしたことである。この大会は、新興独立国にとって、自己主張を展開する国際舞台として軽視できない意味をもっていた。そこには帝国の「解体」ないし「崩壊」とは逆向きのベクトルさえみいだせる。英連邦大会の変貌は、帝国＝コモンウェルスの変貌と並行しつつも、直接それを反映したとも言い切れないことが、これもまた大会名称の変更に際しておこなわれた議論とそのタイミングから見通すことができた。

三つめの成果として、先行研究でとりあげられたことのなかったスコットランド全国スポーツ連盟の文書に拠って導き出された知見と議論があげられる。ここでは、創成期

エンパイア・ゲームズの実情とあわせて、スコットランドにおけるスポーツ界の組織化とエンパイア・ゲームズについては帝国との関係を明らかにした。第一回エンパイア・ゲームズ以来、本国イギリスから英連邦大会には本国内の三つのネーション（イングランド、ウェールズ、スコットランド）がそれぞれ選手団を派遣して大会に参加している。なかでもスコットランドでは、他の二つのネーションに先んじて、英連邦大会の運営と代表選手の選考と派遣に関する業務をおこなう国内協会が設立された。同協会の当時の文書には、本国内でいち早くとりわけイングランドよりも早く協会を設立したことに根ざすプライドがよみとれる。そのいっぽうで、スコットランドの協会が関知しないうちに大会開催地の決定や変更の方向が決められていたことに対する中央統括団体（エンパイア・ゲームズ連盟）への不満が噴出していた。英連邦大会は、スコットランドにとって、帝国の中核に位置し本国のネーションとしても優位を誇る機会が得られる場であると同時に、実務面で周縁的な位置にあったことを認識する場でもあったことが明らかになった。

上記3点を総括していえば、英連邦大会は、帝国=コモンウェルス史にあって、スポーツ文化の一事象にとどまらず、その政治的変容と密接に関わりあうイベントであったことが明らかになったといえる。とくに、帝国=コモンウェルスの政治的変容を大会及びそれを運営するスポーツ諸団体がストレートに被り、それを映しだしたわけではないという点が注目に値する。いわば「もうひとつのコモンウェルス」がスポーツ界につくりだされ、グローバルな空間で一定の社会的機能を果たしていたのである。グローバルな規模のスポーツ大会と地域社会の関係性の観点からは、スコットランドの事例によって、政治の世界とは異なる帝国/コモンウェルス内

でのナショナリズムの交錯状況をみてとることができた。

以上のような成果は、先行研究ではふれられたことのない事実であったり、すでに知られていたことを修正したり、新たな視点から再検討したりしたものである。これらの成果について別記のとおり英文の論稿で公にしたのも、研究史上の意義を見定めてのことである。

今後の展望として、第2次世界大戦後の大会をより多くとりこんだ研究を進めることで、本研究で解明したことを補完・補強するような知見と議論を積み重ねることができようことが見込まれる。本研究では扱いきれなかった多くの新史料とデータも確認できているので、将来性のある課題に着手し、本研究課題としては予期した以上の成果を得られたものとする。

5. 主な発表論文等

（研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線）

〔雑誌論文〕(計2件)

Masahiro Kawamoto, 'Revisiting the History of the British Empire Games: From the Early Years through to the Inauguration', *Research Reports of Humanities, Faculty of Humanities and Economics, Kochi University*, 20 (2014).

（論題和訳：「エンパイア・ゲームズ史再考 前史から一九三〇年代にかけて」『人文科学研究』（高知大学人文学部）第20巻、2014年、7月刊行予定＝掲載確定。）

Masahiro Kawamoto, 'British Empire Games and Scotland in the Early Years National, Imperial, and Sporting Dimensions of the 1930s', *Research Reports of Kochi University*, 62 (2013), pp.141-147.

(論題和訳:「初期のエンパイア・ゲームズとスコットランド 1930年代のネーション、帝国、スポーツの諸相」『高知大学学術研究報告』第62巻、2013年、141-147頁。)

〔学会発表〕(計 0件)

〔図書〕(計 0件)

〔産業財産権〕
出願状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
出願年月日:
国内外の別:

取得状況(計 0件)

名称:
発明者:
権利者:
種類:
番号:
取得年月日:
国内外の別:

〔その他〕
ホームページ等
該当無し

6. 研究組織

(1) 研究代表者

川本 真浩 (Kawamoto Masahiro)
高知大学・教育研究部人文社会科学系・准教授
研究者番号: 20314338

(2) 研究分担者

()

研究者番号:

(3) 連携研究者

()

研究者番号: